

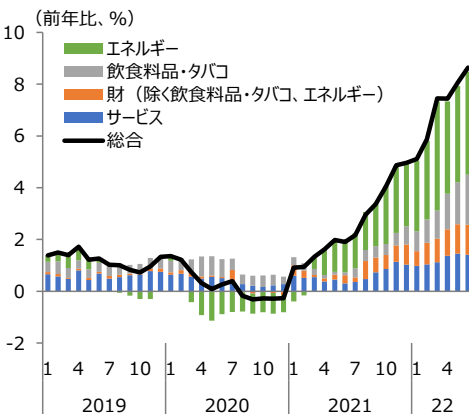
欧州

消費者物価（2022年6月）

記録的な物価上昇継続、コア物価も高止まり

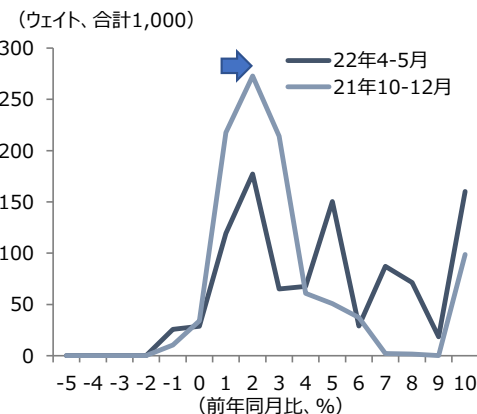
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 消費者物価（ユーロ圏、寄与度）



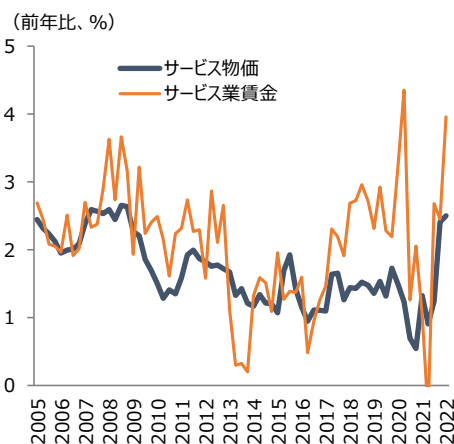
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

2 品目別の物価分布（ユーロ圏）



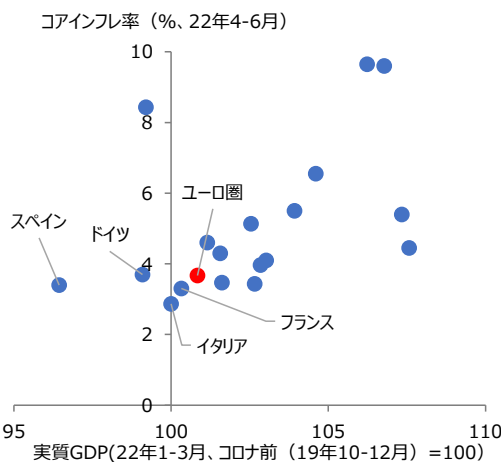
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

3 サービス物価と賃金（ユーロ圏）



注：直近は22年1-3月期。サービス物価は、HICPのサービス物価の四半期平均。
出所：CEICより三菱総合研究所作成

4 実質GDPとコア物価（ユーロ圏）



出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 22年6月のユーロ圏の消費者物価指数（HICP、速報値）は前年同月比+8.6%（図表1）。97年の統計開始以来の過去最高の伸びを再び更新。
- 物価上昇の主因は、国際商品市況の影響を受けるエネルギー（前年同月比+41.9%）、飲食料品・タバコ（同+8.9%）の上昇。コア物価（同+3.7%）はECBが目標とする2%を超える伸びが継続。価格粘着性が高いサービス物価は、4月以降3%以上の伸びとなっている。
- 品目別の物価がわかる22年5月時点までのデータを見ると、物価上昇のすそ野が拡大（図表2）。21年10-12月時点は、エネルギー関連の品目を除けば2%程度が物価上昇の中心であったが、22年4-5月では5%程度、10%以上にもピークがある。

基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の消費者物価は、エネルギー価格高止まりを主因に上昇が続いている。
- 先行きは、物価高止まりを見込む。エネルギーや食料品価格の上昇圧力は徐々に弱まるとみるが、今後は賃金上昇によるデマンドプル物価上昇圧力が強まるとみる。ユーロ圏では22年に入り賃金の伸びが高まっている。特にコア物価を構成するサービス物価は賃金と連動する傾向にある（図表3）。デマンドプル要因が強まり、消費者物価総合は22年平均で7%程度の上昇となるだろう。
- ECBは物価上昇の抑制を重視し、7月と9月の会合で利上げを実施する見込みだが、各国の利上げ許容度は異なる。ユーロ圏は物価上昇率だけでなく、経済の回復状況にもバラつきがあり、主要国のスペインやドイツはコロナ前の実質GDP水準を回復していない（図表4）。
- 利上げは、物価上昇の抑制効果が見込まれるが、回復が弱いユーロ圏経済の下押し圧力となる。堅調な雇用・所得環境、経済活動再開、過剰貯蓄などが経済を下支えするとみるが、経済回復が弱い国を中心に、利上げで回復ペースは鈍化するだろう。